

令和5年度第2回青森市地方独立行政法人評価委員会 会議概要

1 開催日時

令和5年7月27日(木) 15時00分～15時45分

2 開催場所

青森市役所本庁舎2階大会議室

3 出席者

(1) 委員

委員長 小松原 聡
委員長職務代理者 奈須下 淳
委員 安保 照子
委員 今 孝 彰
委員 田 村 強

※欠席委員なし。

(2) 事務局(青森市企画部)

企画部長 織田 知裕
企画部次長 白戸 高史
企画調整課長 太田 直樹
企画調整課主幹 工藤 康彦
企画調整課主査 早狩 真布
企画調整課主事 佐藤 あかり

4 議事

開会

会議

- ・案件 公立大学法人青森公立大学令和4年度業務実績評価について

○事務局から資料1、参考資料1～4について説明

○委員からの主な質疑・意見

(質疑)

- ・青森公立大学の博士課程の目指す教育の目的とはどのようなところにあるのか。研究者の育成なのか、ビジネススクールのような形で高い教育を受けた人材を地域に輩出することを目標としているのか。

(意見)

- ・大学の使命については、グローバル化の進んでいる社会を踏まえた使命もあると思うので、次回の総評にはその点についても記載してほしい。
- ・志願者が定員の5倍以上であったことと高い就職率は、入学したいと思う人が多いことと卒業生を採用したいと思う企業が多いということを表しており、当大学が地域に必要とされている大学であるということを感じた。

- ・大学の地位を高めたと認められる研究成果として顕彰に該当する業績が過去4年間なかったことについて、様々な事情によりやむを得ない側面もあるとは思いますが、令和5年度も実績なしでB評価でいいと思われるのは違うと思う。来年度も同じ状況が続いた場合にB評価とするのはいかがなものかと考える。
- ・顕彰の基準が厳しすぎる等の理由だとすれば、その一步手前のところを評価する制度を作ることも一つの方法としてあるのではないかと考える。
- ・評価書中の「博士課程志願者の確保について、潜在的志願者のニーズを把握するなど志願者増につなげる取組を期待する」という文言について、具体的ではないため補足すると、例えば仕事に就いている社会人で大学院に入りたくても入れない人のための夜間・土曜日の授業開講やオンラインでの開講等により便利性を高めていくことで志願者増につなげることもできるのではないかという意味である。
- ・授業評価アンケートについて、外部業者に業務を委託してみると、質問の観点が違うため、より実態が把握できたり、他校のアンケート結果がわかったりするのではないかと思う。

○質疑への事務局からの回答

- ・博士課程の目指すものとしては、「専修分野の研究を通じた修士論文の作成及び修士の学位取得」、「創造的研究を通じた博士論文の作成及び博士の学位取得」であり、教育理念としては、前期課程においては「経営学的アプローチと経済学的アプローチの融合と結合を通して、経営経済領域における諸課題の発見、分析、および解決に至る柔軟な思考力と専門的な能力を身につけること」、後期課程においては「錯綜する経営・経済現象を解明するための21世紀にふさわしい創造的な教育研究」となっている。養成する人材像については、大学等の教育研究機関で自立的に研究できる専門研究者」「行政機関、民間シンクタンク等で、政策構想、企画調査に携わり、地域の問題を研究する高度専門職業人」「企業、行政において複雑な経営上の意思決定にかかわる問題を研究できる高度専門職業人」となっている。

- 委員からの意見等については議事録により大学に伝えることとし、評価書については原案のとおりとすることを決定した。

閉会